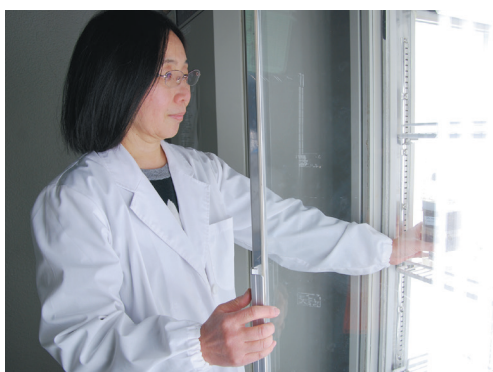


成果が出た時の達成感がたまらない！ 独自の視点を持って社会に貢献したい

野村美加さん

NOMURA MIKA

香川大学農学部
先端生命科学コース
教授・博士（農学）



▶ 恩師が拓いてくれた研究者への道

香川大学は私の母校で、大学院への進学を薦めてくれたのは学部時代の恩師でした。もう少し勉強はしたいけれど語学が苦手だった私の英語をマンツーマンで鍛え、無事に名古屋大学の農学研究科へ。担当したテーマが面白くてすっかりハマってしまい、気がつけば結果として研究者になっていたという感じですね。今の研究テーマは「植物と微生物の相互作用」。マメ科植物と根粒菌に重点を置きつつ、イネ科植物や海の微生物などにも視野を広げて、さまざまな共生のメカニズムを調べているところです。

▶ テーマは柔軟に、視野は広く…

研究の面白さと言われたら、「9割が試行錯誤、1割がうまくいった時の喜び」でしょうか。苦しんで苦しんでようやく結果が出た時の達成感一度味わうとやめられなくて、いい結果を出そうというモチベーションにもなるんです。研究テーマは社会のニーズとともに変化するものだと思いますから、今の分野に固執するよりも、知見を活かして拡げていく方に興味があります。地方ならではの環境を活かして、他の誰にもできない研究分野を切り拓いていくことが私の使命です。

▶ 周囲のサポートで子育てと仕事を両立

ここ10年ほどで大きく変わってきましたが、私が子育てをしていた25年前は福利厚生がほとんどなく、理解のある先生方のおかげで乗り越えられました。子どもができたことを機に「産休を取って夫が働くアメリカに行こうと思う」と相談した時、当時の農学科長が「海外研究員として行けばいい」とアドバイスしてくださって、オクラホマ大・ネヴァダ大へ計1年間留学。1歳にもならない子連れでアメリカを横断することになったりして本当に大変でしたが、大いに楽しみました。現地で研究員として学べたことは、今もかけがえのない財産になっています。

Profile

愛知県生まれ。香川大学卒業後、1997年に名古屋大学大学院農学研究科博士課程を修了し、香川大学農学部で助手を務める。99年に客員研究員としてアメリカで1年を過ごし、2003年から香川大学農学部助教授、14年から現職。

▶ 愛猫とともに

6年くらい前、息子が「猫を飼いたい」というので黒猫を家族に迎えました。私にとって日々なくてはならない存在です。



中高生への Message

私は「数学が好き」が理系に進んだきっかけの一つでした。もともとは化学に興味がありましたが、面白いと感じた方へ進むうちに生物分野へ。好きなことを自分なりに追求すれば、きっとそこから新しいものが芽生え、身近な人たちがちゃんとサポートしてくれます。「好き」に自信を持って探求してください。農学部は女性が多い分野、私たちもロールモデルとなれるよう頑張ります。

